

謎解き！ 可児の古墳たんけん！

可児市に多くの古墳があったことを知っていますか。その数は約400基ともいわれ、現在もその姿が見られるものがあります。この夏、可児郷土歴史館では古墳をテーマにした展示を開催します。日本の歴史を語る上で欠かせない古墳の謎に触れてみませんか。

問合先 可児郷土歴史館 ☎ 0211



馬形埴輪（春日井市味美二子山古墳、春日井市教育委員会提供）
馬の形をしており、古墳の周りに並べられました。高さは約120cmで、くらや手綱までしっかり表現されています

展示の見どころを案内します



文化財課 長江 学芸員

今回の展示では、古墳から出土した埴輪や鏡、馬具、当時の人が身に付けた装飾品などを中心に紹介します。展示を見ながら、古墳時代の人たちがどのような物を使って暮らしていたのか感じていただけるようになっています。

例えば武器や農具、装飾品器などは亡くなった人になつわるものが納められることが多く、埋葬された人を知る手掛かりになります。出土品を並べて見るだけでなく、それらがどのような意味を持つのかなど古墳や展示品を楽しんで見ることも解説しています。

他にも家族連れにも楽しんでいただけるよう、本物の土器に触ったり、古墳時代の衣装を着たりすることのできる体験コーナーも用意しました。衣装を着て会場を歩いてみると、当時の生活が身近に感じられて、より展示を楽しめると思いますよ。

また、市内の古墳を紹介したガイ

のぞくと顔が映るかも…。



複製鏡（海津市円満寺山古墳、岐阜県博物館所蔵）
銅鏡はさびると緑色になりますが、作った当時はこのような色をしていました

石の腕輪などさまざまな色の装飾品が当時の権力者を飾りました。



装身具、鏡（長塚古墳）
市内最大の古墳である長塚古墳の前方部から出土しました。琥珀やガラスが使われている装飾品もあります

戦いのときに身に付けたものでしょうか？



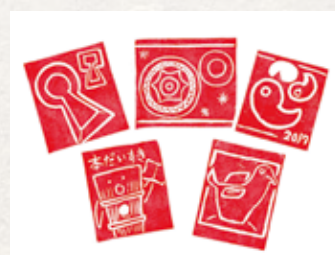
複製短甲（岐阜市龍門寺1号墳、岐阜市歴史博物館所蔵）
出土品を復元したよといです。板状の鉄を重ね合わせて作られています



そろばん玉、切子玉（坂戸上野古墳）
水晶の玉です。奥にあるものがそろばん玉、多面体のものが切子玉と呼ばれます

古墳スタンプラリーも同時開催

展示期間中に図書館本館・可児郷土歴史館・川合公民館・中恵土公民館・広見公民館の5館でスタンプラリーを行います。スタンプを集めると、すてきな記念品がもらえます。



体験コーナーでは本物の土器に触れます

ドブックを販売します（200円）。この夏はガイドブックを手に、市内の古墳を見に行ってみませんか。

期間 7月7日（金）～9月3日（日）
時間 午前9時～午後4時30分
場所 可児郷土歴史館
休館日 月曜日（月曜が祝日の場合は翌日）
入館料 200円（高校生以下は無料）

体験すると好きになる 古墳関連講座

(締め切りは各講座1週間前まで)

7/15
土

ペーパークラフトを作って、長塚古墳を見に行こう

時 間 午前10時～正午
場 所 中恵土公民館
対 象 小学生親子
定 員 20人(抽選)
参加費 無料
申込先 中恵土公民館 ☎ 8722



7/22
土

オープン粘土でハニワづくり

時 間 ①午前10時～11時30分
②午後1時30分～3時
場 所 久々利公民館
対 象 小中学生親子
定 員 各10組(抽選)
参加費 1組200円
申込先 可児郷土歴史館 ☎ 0211



8/4
金

石を削って勾玉づくり

時 間 ①午前9時30分～正午
②午後1時～3時30分
場 所 久々利公民館
対 象 小中学生親子
定 員 各10組(抽選)
参加費 500円
申込先 可児郷土歴史館



8/6
日

ガラスを溶かして勾玉をつくろう

時 間 午前9時30分～午後2時
場 所 わくわく体験館
対 象 小学生親子
定 員 20人(抽選)
参加費 1,000円
申込先 わくわく体験館 ☎ 1515



8/26
土

古墳講演会「木曽川中流域の古墳と東国」

時 間 午後1時30分～3時
場 所 久々利公民館
講 師 田中裕さん(茨城大学人文社会科学部副学部長)
対 象 中学生以上
定 員 100人
参加費 無料(申込不要)



市内には国・県史跡を含む約400基の古墳がありました。知らない人も多いのではないのでしょうか。

実は古墳は私たちの身近なところにあります。平地で木が密集している場所や、土が不自然に盛り上がりつつある場所が古墳の可能性にあります。長い時間が経過するうちに削られてしまったものや無くなったものもありますが、可児の祖先の息吹を伝える大切な遺産です。

古墳に込められた愛を伝えたい

私たちの身近にある遺産

古墳が伝えるメッセージ



文化財課 長江 学芸員

古墳を造るには、たくさん土や石が必要です。亡くなった人のために、今では考えられない労力を掛けて古墳を造り、一緒に装飾品や金属などの貴重品を入れます。貴重品など「使えはいいのに」と思ってしまうですが、亡くなった人への思いの強さが感じられます。

また古墳には、埋葬までの共通した儀式が見られたり、副葬された物から地域同士のつながりが分かったりします。

古墳時代はお墓が主役になった特殊な時代です。お墓を造ることにこれまでの労力をかけたのは、他の時代では見られません。そして1400年以上前の古墳が今も目に見える形で残っているのはとてもすごいことです。今回の展示が、見た人に「可児市にこんな古墳があったんだ」「他の地域にはどんな古墳があるんだろう」と関心を持つきっかけになってくれればと思います。

7ページでも可児市の古墳について紹介していますので、こちらもご覧ください。

古墳時代については、まだ分かっていない事がたくさんあります。展示を見て「なぜ古墳に入れたのか」「なぜ並べたのか」など疑問に思ったら、当時の人々の気持ちになってみましょう。出土品一つを取っても、どうやって作ったのかを考えると、より深く知るきっかけになります。発掘をする人は、実際にそのようなことを考えています。

当時の人の気持ちになって

など、多くのメッセージが残されています。大きなお墓というイメージが強い古墳ですが、古墳を造るという行為自体が、その地域や地域同士のつながりを強める大事な手段だったのです。



熊野古墳(県史跡)の内部



長塚古墳の内部



長塚古墳(国史跡)の外観